

アレルギーなど、多種多様なタイプがございまして、それぞれ症状ですとか原因の食物、発症年齢などもそれぞれ異なるため、これら全部のアレルギーに対応することはなかなか困難となります。

このようなことから、議員からのご提案にもございましたように、防災に関する情報提供ですとか、それから防災訓練などの際に、備蓄食料における食物アレルギーに関することや、各家庭の状況に応じまして、食物アレルギーに対応した食料等を備蓄していただくことなどを今後とも呼びかけていきたいと考えております。

○平 進介議長 5番、竹田陽一議員。

○5番 竹田陽一議員 大変丁寧な答弁、ありがとうございました。

最初に、受診率向上の関係で、市長からは8割までというふうな力強い目標を言っていただきまして、ありがとうございました。何をどうしても健康でないと何もできませんので、それが第一かなというふうに思います。65というような令和5年度の目標値もあったわけですが、できるだけ早く、その80%を目指してやっていただきたいというふうに思います。

ただ、今までもいろいろやられておりますが、ちょっと手を加えると、余り経費をかけずにできる部分も多いかというふうに思いますので、その辺は工夫をしていただいてというふうに思います。

それから、食料の備蓄関係ですが、これについてはやっぱり今、災害はいつ起こるかわからないというようなことです。今この場で起こる可能性も十分あるわけですので、そういう意識を持って、きちっと備えるものは備えていただきたいし、また市民の方にも、そういうふうな危機意識を常日ごろから持っていただくような啓蒙なども、これからも続けていただきたいというふうに思います。

以上で私の質問は終わりたいと思います。あ

りがとうございました。

○平 進介議長 ここで暫時休憩いたします。再開は午後3時20分といたします。

午後 2時57分 休憩

午後 3時20分 再開

○平 進介議長 休憩前に復し、会議を再開いたします。

市政一般に関する質問を続行いたします。

小関秀一議員の質問

○平 進介議長 次に、順位10番、議席番号13番、小関秀一議員。

○13番 小関秀一議員 非常に暑くて大変な一般質問になりました。よろしくお願ひします。

連日、報道されております自然の災害、あと本当に涙を拭うような子供虐待の話、きのうも線路の事故などあったわけですが、特に高齢ドライバーの事故やあおり運転の事故など、毎日、震えがくるようなニュース、また国際的には政治の不安、さまざまな外国の事情等も報じられております。本当に平和で穏やかな暮らしができることを願って、今回は2つの質問に絞ってさせていただきます。一問一答ですので、時間調整しながらさせていただきますので、よろしくお願ひします。

1つ目の質問に入ります。顧みますと、7月の10日だったと思いますけれども、事務方のほうから電話が入って、私、たまたま厚生常任委員長なので、毎日新聞に、いわゆる俗に言うマザーズバッグ、出産時育児用品贈呈事業に関する記事が出るという連絡が入りました。私は

定期購読をしてない新聞だったので、購入をしながら記事を読ませていただきました。その後、委員会を開くので説明を受けるのかというふうなことも考えたわけですが、全員協議会で説明があったわけですが、これについては地方紙を中心にした、いわゆる全紙と、驚いたのはNHKの全国放送でもニュースでテレビで放映されたと、流れたということもありました。ショックであります。全国でも子育て支援を目標に、そして地域振興、産業振興含めての大事業プロジェクトであったわけでありますので、注目も大きかったし、反響も大きかったし、私たち市民がびっくりさせられたということでもあります。

まずもって、今回のこの子育て支援の定着を図る出産時育児用品贈呈事業の経過について、子育て推進課長から簡単に結構ですので、説明をいただきます。

○平 進介議長 加藤潤子子育て推進課長。

○加藤潤子子育て推進課長 それでは、私のほうから、本事業の趣旨をご説明いたします。

これは、平成29年4月以降、出生届を出された際に、お子さんには長井市に生まれてくれてありがとう、お父さん、お母さんには出産おめでとうございますの気持ちを込めて育児用品を贈呈させていただいている事業です。

本事業を実施する経緯といたしましては、平成27年9月に策定した長井市まち・ひと・しごと創生総合戦略において、長井市の地方創生として教育、子育てを柱に、人の循環や交流を強化していくという方針に基づくものです。

特に総合戦略の基本目標1、若い世代の結婚、出産、子育ての希望をかなえるでは、子育て世代や子供たち自身が魅力を感じられるような施策を講じることとしていました。

一方、平成26年度から取り組んでいたながいシティプロモーション事業では、平成27年度に市をプロモーションしていく際のコンセプトとして、水をテーマとしております。豊かな水と

市の将来につながる子育てを結び、魅力ある豊かな暮らしを示すキャッチコピー「天然水100%の子育てライフながい」を作成いたしました。この「天然水100%子育てライフながい」を具現化する事業として、本事業を実施、検討したものです。

本事業は、このころ地域おこし協力隊であった佐藤亜紀隊員の発案によるもので、長井市の暮らしやすさや子育て環境を子育て世代に広くアピールする手段として、フィンランドが実施している子育てに関する一貫した支援制度ネウボラ及び、その事業の一つである育児用品の配付に着想を得たものです。本事業は、長井市の地域創生の柱、教育、子育てにも合致することから、平成29年度からの事業実施に向けて進めてきました。

また、そのころ国では子育て世代包括支援センターの整備、拡充を進めており、切れ目のない子育て支援の一環として位置づけられるべき政策であることから、全国でも有数の子育て支援のまちとして政策を展開していくという決意のあらわれとして、先駆けて実施してきたものです。

具体的には、贈呈する育児用品は、ご家族が欲しいものというものではなくて、長井市に生まれてお子さんに持っていてほしいもの、地場産品や独自の商品という発想で市内企業、職人、市民の協力で企画、製作を行いました。その育児用品は、佐藤氏が代表を務める特定非営利活動法人 a L k u が1つの箱にまとめて販売いたしました。市では、平成29年4月からこれを購入し、出生届の際に贈呈してきました。

経緯と趣旨につきましては以上でございます。

○平 進介議長 13番、小関秀一議員。

○13番 小関秀一議員 概要の説明をいただきました。さまざまな注目されたというふうなことで、途中、名称の変更等あったわけですが、また今現在も長井市ではこの事業を継続してる

という意味からすれば、事業の趣旨については大変理にかなったものかなというふうなことを思いますけども、2番目に入りますが、子育て世代、出産された方々の要望に沿ったものかどうかというのは、これは常に検証していかなねというふうに、私はこれからも思います。

例えばですが、ボックスに入れた育児用品が最高に安全なのか、いいのかなという議論もフィンランドの事業の中でも議論があるというふうなことも伝えられておりますし、オーガニックというふうなこととか、さまざまな子育てをする側の要望からいえば、与えられた商品、品物ではなくて、自分が選ぶことによって子供の愛情なり子育ての意識が深まるというふうな、一方では見方もあるということもあります。その辺もいろいろ、今後も事業が継続するとすれば、検証していかなねべなというふうに思います。

2番目、本事業のしてきた成果、効果をどういうふうに捉えてきたかということをお聞きします。

3つの観点からですが、市民の声はどうであったのか、あと、受け取られたご両親からの感想はどうであったのか、今後に向けた要望など、そのアンケートなどを通じて伝わったものがあればどうなのか、課長からお聞きをします。

○平 進介議長 加藤潤子子育て推進課長。

○加藤潤子子育て推進課長 それでは、私のほうからお答えいたします。

市民からの声はという点でございますが、平成31年3月定例会予算総括の鈴木富美子議員のご質問にお答えしてもおりますけれども、長井市は子育て支援を市政の重要戦略の一つとして掲げております。少子化が課題となっている中で、この事業は子育て世代が子育てに魅力を感じ、長井市の子育て環境への満足度を高めるきっかけになるものと思っております。

市民の方から直接にといいますと、出産され

たご家族以外の方ですと、なかなか直接お聞きするということはできないんですが、実際にこの贈呈事業を出生前から知っていたという方がアンケートの中では91%もいらっしゃったということをお考えますと、十分期待いただいている事業であるというふうに思っております。

また、特に受け取られたご両親からの感想ということでございますが、贈呈する際には子育て推進課の職員が一堂に窓口に集まり、おめでとうございますの声とともに、拍手をしております。照れくさそうにされるお父さんもいらっしゃいますが、うれしそうにありがとうございますとおっしゃっていただくことも多くありまして、中にはボックスをベッドにするためにベッドは買っていませんというふうにおっしゃったお母さんもいらっしゃいました。そのようなご両親からの感想だと思っております。

今後に向けた要望等はどうかという点でございますが、アンケートを行っておりまして、そのアンケートの項目、例えば入っているうれしかったものは何かなどを印刷したはがきをお渡ししておりまして、家で内容を確認いただいてから郵送していただいております。

中にはボックスは大きくて処分に困る、何種類かから選べるほうがよかったなどの意見も頂戴しておりますが、一方でとても大きな箱でインパクトが大きかった、出産の喜びが倍増したですとか、今後も続けていただければ、これから妊娠、出産される方も喜ぶと思うなどの回答もいただいております。この事業の成果としてあらわれているのではないかと感じております。

また、市内の事業所が作成した商品ということで、地場産業の振興に寄与しているものとも思っております。

また、今後もこの事業を継続しているということにより、安心して子供を産み育て、子供が健やかに成長できるまちを具現化する一端を担

うものであると思っております。

○平 進介議長 13番、小関秀一議員。

○13番 小関秀一議員 いろいろ感想等を報告をいただきました。

まず、第1点ですが、29年度から、最初は子供が見て喜ぶようなモバイルだったのを、スプーンにかえたというふうな理由についてはわかりますか、経過の中で。

○平 進介議長 加藤潤子子育て推進課長。

○加藤潤子子育て推進課長 お答えいたします。

確かに29年度、当初はモバイルというものを入れておりました。ただ、作成される方も大変細かな作業が必要になってきますので、手間がかかるというようなことを聞いております。あと、アンケートの中からも、スプーンであるとか、そういった使いやすいものを入れていただけないかというようなアンケートの意見もあったということで、30年度から変更してきたというようなことでございます。

○平 進介議長 13番、小関秀一議員。

○13番 小関秀一議員 それは単価としては同じ単価で、品物を入れかえただけということで理解してよろしいんですか。

○平 進介議長 加藤潤子子育て推進課長。

○加藤潤子子育て推進課長 はい、単価は同じでございます。

○平 進介議長 13番、小関秀一議員。

○13番 小関秀一議員 今までの成果と効果という意味からいうと、さっき最初にいろいろな全国から注目されるような、いわゆるマスコミなりも含めてですが、話題になったということでもありますけれども、恐らく行政視察も含めて、視察も結構あったんじゃないかなと私は想像するわけです。

私が見つけた部分では、行政視察で北上市が去年の7月から8月2日に来られて、特に子育て関係、特に地域おこし協力隊の起業支援体制について視察をされておって、私んだが地元で

あってもいろいろ実態がまだよくわからない部分っていうか、評価の部分でわからない部分をきちんとまとめられて報告されておる部分がありました。大変起業をして意義あるベビーボックスの製作をしておられる長井市の取り組みについてというふうな報告書がありました。

特にその中で強調されているのは、市内の職人さんなり業者さんがかかわって、こういう事業を成功させているというふうな報告が非常に注目される部分だったんべなというふうに思いますけれども、そのほかに行政視察なり、このベビーボックスに関しての視察等がもし把握している部分でありましたらば、件数等でよろしいですから教えてください。

○平 進介議長 加藤潤子子育て推進課長。

○加藤潤子子育て推進課長 お答えいたします。視察等の確認はできておりませんといえますか、なかったというふうに聞いております。ただ、全国から3件ほどお電話で問い合わせ等をいただいていたということは、当時の課長からお聞きしたところです。

○平 進介議長 13番、小関秀一議員。

○13番 小関秀一議員 ありがとうございます。

特に、繰り返しになりますけれども、北上の報告書の中に、オーガニックにこだわるなどの熱意を感じた、ボックスをもらうときにうれしいのはもちろんですが、使う中で道具に対する愛着も湧くようになったというふうな評価がされるということとか、行政の大きな目標であります出生、子育てを支援するという意味からいうと、祝福の気持ちと出生率の向上という成果にもつながっており、当市も学ぶべき事例だというふうな評価も得られるというふうに書かれておりますけれども、本当にそういうふうに結びつくといいなというふうに私も今後も期待するわけですが、そういう意味からいうと、今回のいろいろなボックスからマザーズバッグ

に変わった経過とか、さまざまな想定外の部分も途中経過であったわけでありませう。

そういう総括について、今ちょっと手元にないんですけども、後ろに忘れてきましたが、平成30年度の成果報告書、これは各事業の長井市のほぼ重要事業について報告をいただいておりますけれども、こんげに長井市で重点の事業として取り上げられてる事業の報告が入っておりません。これについては何か理由なり意図なりがあって、成果なり効果なりを評価してないのか、その辺、お聞きします。

○平 進介議長 加藤潤子子育て推進課長。

○加藤潤子子育て推進課長 お答えいたします。

30年度の成果報告といえますと、そこに今年度は掲載いたしませんでした。といえますのは、このようなことがあったというようなことが原因ではなくて、前年度から比べますと、やはり予算的にも縮小されたというようなこともありましたし、あとベビーボックスという名称につきまして、大変いろいろな商標登録の関係で問い合わせ等があったということもありましたものですから、このたびの30年度の成果報告というところに掲載いたしませんでした。

ただ、今、議員おっしゃるとおり、長井市におきましても大変重要な政策の一つでございますので、載せるべきだったなというふうに今考えているところです。

○平 進介議長 13番、小関秀一議員。

○13番 小関秀一議員 予算が変わっても、私んだは、今回の事案は別にして、非常に注目されてるし、今後も続ける事業だとすれば、やっぱり成果と評価と今後の課題については、きちんとした評価をしていがないねんじゃねえかって私は思うし、ほとんどの事業がこの成果報告書さ上り上がってる、なぜここさ上り上がってねえのか、私は疑問に思うんだけど、その辺の成果、効果について、意図的に上り上がってなかったのかというふうなことはもう一遍お聞きをします。

○平 進介議長 小関議員に申し上げますが、今の件につきましては通告に入っておりませんので、別の機会に質問、質疑をお願いしたいと思います。

13番、小関秀一議員。

○13番 小関秀一議員 当局が、この事業に対して成果、効果をどう捉えてきたかということでは、十分質問の中身は合致してると思います、私は。当局がどういう評価したか。

○平 進介議長 成果報告書に記載するしないの部分については通告外というふうに判断しますので、質問内容を変えてお願いしたいと思います。

13番、小関秀一議員。

○13番 小関秀一議員 私は、今、議長からは指摘されたので、次に進みますが、成果報告はきちんとここへは当然入るべきだと、こげな注目さっちゃ事業。それでは、さまざまな今までとってもいい事業というふうなことで評価なり視察をされてきた、市民からも受け取った親からも、アンケートも含めていい事業だったというふうに評価をしてきたということでありませう。本事業が、先ほど申し上げましたように、7月の10日に最初、毎日新聞、その次に地方紙全紙なり、多くの今度ブログなりにも報道されました。全員協議会の資料でも19日に報告があったわけですが、全て平成27年からの経過等含めてということではなくて、今回、私はあえて事件というふうに書かせていただいたわけですが、すりかえの経過とその後に対応について、課長から大まかなところで結構ですので、資料はいただいておりますので、説明をいただきます。

○平 進介議長 加藤潤子子育て推進課長。

○加藤潤子子育て推進課長 それでは、ご質問にありました事務引き継ぎの内容等をご説明させていただきます。

まず、第1点は、a L k uが突然、平成31年度の事業を行わないとの意向があり、地場産業

振興センターからの納品となったという点と、2点目といたしまして、漆塗りのスプーンが仕様書と異なるものであるとの申し出があって、市の対応が問われている状況にあるという引き継ぎを受けました。また、担当者からは、現在、正規品でない商品の納品書の提出を待っている状況であるというふうな聞き取りを行いましたし、経過等をまとめた文書を確認いたしました。

担当者は既に佐藤氏と電話でのやりとりはできず、メールで市内の漆塗りスプーンを購入先であるC i e l oと連絡がとれなくなり、納品いただけなくなったため、代替品を購入したとの説明を受けておりました。また、代替品は京都の老舗から購入したとの申告であり、すぐにも納品書の提出ができるような返答であったため、納品書の提出と佐藤氏との直接面談の調整を行っておりましたが、なかなかそれがかなわない状況でありました。

私も4月1日から直接電話やメール、自宅訪問を重ね、佐藤氏とようやく面談できましたのは4月9日でした。その際には、京都の老舗のものであっても、当初のボックスに入っているべき長井市の地場産品であるスプーンとは異なるものであり、贈呈した方々への交換を市で行うというような提案をいたしますと、佐藤氏は了承し、その際に発生した代金はa L k uが支払うということで口頭で確認したところです。

早速、確約書を作成し、佐藤氏にサインをもらう準備と贈呈者へのお知らせ文書や名簿等の作成を進めておりましたが、C i e l oのほうからa L k uに納品したとしても支払いは見込めないため、正規品の納品はできないというお返事をいただき、どうにか交換できる方向性を内部で検討しました結果、a L k uと変更契約をし、スプーン40セット分の代金を返納いただき、それを財源にC i e l oから市が直接購入する方法をとらせていただいたところです。C

i e l oが10月までにスプーンを110セット納品していたということを考察しますと、おおむね10月前後の贈呈者までを確認し、6月12日までに49個、各交換をいたしました。しかし、京都の老舗からの購入したと思われるスプーンが一向に出てきませんでしたので、贈呈者144人全ての方を確認するという作業を追加いたしました。そのため、7月以降までずれ込み、確認が終わります前に報道機関からの問い合わせによりまして、全ての確認が終了する前の報道となってしまったということのものです。

新聞等の報道や8月9日の全員協議会でも概要をご報告いたしました。詳しい経過及び対応を時系列で申し上げます。平成31年3月11日、スプーン納入業者から、漆のスプーンではないとのご指摘を受けました。そのことを確認すべく、佐藤氏に面談したところ、京都の老舗のスプーンを入れたということでした。3月17日、a L k uから平成31年度の契約はしないとメールでの連絡がありました。佐藤氏に電話やメール、自宅へ訪問いたしました。コンタクトがとれない状況が続きました。4月9日に佐藤氏と面談し、スプーンの交換を希望する旨の意向が佐藤氏からありました。5月16日に当初150個購入契約を40個分減額するための変更契約をし、a L k uへ差額の返納を求めました。同時に、スプーン納入業者からは、市が直接購入することでスプーンの納品を了承いただいたところです。5月20日から贈呈者への電話や文書を持参し、スプーンを回収、交換などの調査を開始いたしました。5月24日、変更契約の差額分21万6,000円を返金してもらい、直接40セットのスプーンを購入いたしました。同日、5月24日から交換作業を行っております。7月10日、報道機関への説明の時点では8件連絡がとれない状況でしたが、結果といたしましては全ての贈呈者に関し、調査、交換を実施し、対象商品の贈呈者全144件、そのうち交換が必要

だったものは49件でありました。

○平 進介議長 13番、小関秀一議員。

○13番 小関秀一議員 今回の一連の経過を説明いただいたわけですが、3月11日に違うスプーンが入っていたということで発覚したというふうなことから始まって、4月、年度替えて管理職なり担当者が人事異動でかわったということで、これは引き継ぎを含めて、今、課長からは、その前段と引き継ぎを終わってからの説明があったというふうに理解をするわけです。

課長なり担当者も同時に人事異動でかわったというふうなことの中で、なかなかその年度を超えてからのことについては大変苦勞されたんだべなというふうに私は想像するわけですが、今、説明のあった、別のものが入ってたというふうな指摘をしたならば、京都、象彦さんのスプーンを入れたんだよというふうなことで、ほだらば、納品書を見せてくださいというふうな指摘をしておったと。なかなかその納品書が提出されなかったと。

私、不思議なんだけども、長井市の伝統工芸のスプーンでなくて、京都のスプーンだったらしいのかなと、今、課長はそういう話はつけ加えなかったわけですけれども、ほかのもの、ほかのところの商品、例えば同じ価格だとしても、それはこの事業の趣旨には全く沿わないわけなんで、その時点で、これは物品購入契約から全く逸脱した行為を、もう既に本人が、何ていうか、きちんと表明したというふうに私は思うんですが、その辺は担当としてどういうふうにその時点で捉えたんですか、ほかのスプーンが入ってたというふうな彼女の言いわけについて。

○平 進介議長 加藤潤子子育て推進課長。

○加藤潤子子育て推進課長 議員おっしゃるとおり、趣旨から反するものでありますので、幾ら京都の老舗の価格が高いものであっても該当するものではない、それでよかったということに

はならないと思いますが、ただ、先ほども申し上げましたが、すぐにでも納品書が出てくるようなことで担当者のほうは受けとめておりましたので、それで市内の業者のものをすぐにでも変更するというに切りかえまして、交換作業を行ってきたものです。

担当者のほうでは、先ほど申し上げましたとおり、お願いしていたスプーンの納品業者であるCieloさんのほうから納品いただけないので違うものを納品しましたというような言い方でございましたので、その納品書をこちらのほうでは提示を求めてきたということであったと思います。

○平 進介議長 13番、小関秀一議員。

○13番 小関秀一議員 その前段は、私、聞いてなかったんですが、そういう理由があったと、市内の業者さんから納品がいただけないのでということですね。

それは、例えばですが、ここで確認したいんですが、平成31年度、令和になるわけですが、今年度は、a L k uさんは事業を継続しないというきっかけが、今年度の予算立ての時期に、その漆の市内の職人さんから、もう私はしませんよというふうなことがあったので、単価も変え、a L k uさんも、この事業には参画をしないという方針を立てられたというふうに私はお聞きしたんですが、その辺を佐藤亜紀さんが表現をしてると、発言をしてるというふうにお聞きしたんですが、課長はその辺についてはどう伝わってますか。

○平 進介議長 加藤潤子子育て推進課長。

○加藤潤子子育て推進課長 中の入れております物品を見直しを行いましたのでというような理由だけでございました。

○平 進介議長 13番、小関秀一議員。

○13番 小関秀一議員 物品を入れかえたから済むというふうなことでは、これは決してないなべなというふうに思います。

スプーンをつくった製作者が、そういう、私はもうここに納品しないとかなというふうなことは聞かれたこともないし、言ってもいないというふうに言ったそうでもありますけれども、これは言った、言わないの話だかもしれませんが、それで31年度、今年度から事業の規模、マザーズバッグに入っておる品物も変わってきたというふうなことでありますので、なかなかそこについての整理が私はつかないなというふうに思っております。

もう一つだけ、今の課長の経過説明の中で確認をしたいんですが、5月24日に a L k u さんから21万6,000円返金がありましたというふうに説明がありました。これについては、全員協議会の説明の中では、佐藤亜紀さん、NPOの代表については連絡もとれないので、いろいろ経過の中で、副代表である本田さんから返金をいただいたというふうなことでありましたが、それに間違いございませんか。

○平 進介議長 加藤潤子子育て推進課長。

○加藤潤子子育て推進課長 実際お支払いいただいたのはそうですが、長井市といたしましては a L k u というところで変更契約を結んでおまして、領収書というのも a L k u で切らせていただいているところです。

○平 進介議長 13番、小関秀一議員。

○13番 小関秀一議員 それでは、長井市が a L k u 宛ての領収書を出したということで理解してよろしいんですか。

○平 進介議長 加藤潤子子育て推進課長。

○加藤潤子子育て推進課長 はい、そうです。

○平 進介議長 13番、小関秀一議員。

○13番 小関秀一議員 それでは、その領収書に基づいた品物の入れかえの差額、さっきありましたけども、21万6,000円については、a L k u というNPO、いわゆる法人の物品購入契約に基づいた差額の分ということで a L k u さんの名前で領収書を長井市が出したと、これお

かしくないですか。再度そこを確認します。

○平 進介議長 加藤潤子子育て推進課長。

○加藤潤子子育て推進課長 変更契約に基づきまして、返納いただいたということです。

○平 進介議長 13番、小関秀一議員。

○13番 小関秀一議員 ちょっとその辺、例えば年度を超しての契約の入金、出金、領収の話にもなりますので、ぜひその辺は監査というか、決算さかかわるのかどうかですが、5月24日といえば、まだ前年度の許容範囲の中のお金の動きに入るのかどうかですが、私、そこら辺は監査委員も含めて検証していただきたいんですが、この領収書については、そうすると、本田副代表に a L k u という立場でお出しをしたということで、再度確認をしたいと思います。

○平 進介議長 なお、小関議員に申し上げますが、通告の内容を超えておりますので、この件についてはここまでにさせていただきたいと思えます。

加藤潤子子育て推進課長、今の質問に答弁をお願いします。

○加藤潤子子育て推進課長 そのとおりです。

○平 進介議長 13番、小関秀一議員。

○13番 小関秀一議員 それでは、地域おこし協力隊の採用条件、身分調査等についてはどうかというふうなことで、これについては今回の事案だけでなく、全国的に地域創生の事業なり地方の活性化なり、人口を地方に呼び戻すというふうなこともさまざまな要因があるわけですが、長井市でもかなり地域おこし協力隊の経過があるわけですね。これまでの現状と今後の課題、特にその採用条件のところを中心に総務参事から説明をいただきたい。

○平 進介議長 竹田利弘総務参事。

○竹田利弘総務参事 私のほうには、一般的な地域おこし協力隊の採用についてのご質問でありましたので、一般的なことについて申し上げます。

地域おこし協力隊につきましては、いわゆる地域の活性化等を目指して、いわゆる大都市圏から最大3年間ということで、地方のほうで活性化に寄与したい、スキルを持った人というのを寄与したいということで始まった制度でございまして、それぞれの、例えば地域活性化の事業、産学官公ですとか、いろんなことの、いわゆるいろんな事業について、長井市地域おこし協力隊募集要項を作成いたしましたして、市のホームページとか山形県とか、あとJOINという全国の組織、地域活性化センターの中に事務局がありますが、その一般社団法人移住推進機構の地域おこし協力隊募集のウェブサイトがございまして……。

(「身分調査のことを」と呼ぶ者あり)

○**竹田利弘総務参事** そこでまず募集をするものでございます。

それで、応募の要件でございしますが、当然年齢もございまして。あと、いわゆる大都市圏に住んでいるかどうかということと、あと心身ともに健康で、地域の活性化に意欲と熱意があり、積極的に活動できる方、あと普通免許、運転の免許を持ってるか、あとパソコンの一般的な操作ができるか、あと、いわゆる地方公務員法第16条の欠格事項、例えば禁錮以上の刑を受けている最中だとか、それに該当しない方とかという応募条件でございまして。

あと、一般的に書類審査と面接の審査を行っております。面談ですけども、それらの条件に、特に長井市で地域おこし協力隊として活動できるかというのを、複数の管理職とか補佐クラスを中心に面談をしまして、適当かどうかを判断してございまして。

あと、先ほどありました身近調査のお話でございしますが、市職員とか、市で雇用します定時補助職員の採用に当たりまして、当然面接まででございまして、いわゆる身近調査等は一切それは行っておりませんので、今回の地域おこ

し協力隊についても、そういった調査は行うものではないかとでございます。

○**平 進介議長** 13番、小関秀一議員。

○**13番 小関秀一議員** そうしますと、身近調査を行っていないということでありますので、経歴なり履歴書の書面と面談でということとされておるといふふうなことで確認してよろしいですか。

○**平 進介議長** 竹田総務参事。

○**竹田利弘総務参事** そのとおりでございます。

○**平 進介議長** 13番、小関秀一議員。

○**13番 小関秀一議員** ちょっと順番飛ばしましたので、時間がないので、4番、あんまり詳しく触れないでしまったんですが、6番に移ります。

今般の事案というか、及ぼした影響を、当局としてはどういうふうに捉えておるのか、非常にさっきからも申し上げたとおり、注目された事業であります。これからは恐らく子供を出産された方へのお祝いの気持ちで継続されるんだろうなというふうに思いますけれども、全国的にも、こういうNPOに対しての不信感も含めて、非常に話題になっておるわけですので、その辺をどう捉えているのか、参事に伺います。

○**平 進介議長** 小関浩幸厚生参事。

○**小関浩幸厚生参事** 今般の事案が及ぼした影響をどう捉えているか、注目された本事業への影響と検証を伺うということでございしますが、さきに子育て推進課長が申し上げましたとおり、平成27年度のながいシティプロモーション戦略会議において、天然水100%の子育てライフをコンセプトに、子育てに特化したまちであることを全国的にPRしていくことが本事業の始まりでございました。開始時には報道各社で、議員もおっしゃいますように、大きく取り上げていただきました。その後、全国市町村から事業目的や経過、進め方などの問い合わせの電話をいただいたことなどは、反響が大きかったと感

じているところでございます。

また、その後、多くの市町村が出生児にギフトを贈呈するという同様の事業をなされてきていることから見ても、お父さん、お母さんに支持される取り組みであると考えておまして、事業としては、今年度も継続して行っているところでございます。

しかし、このたびのa L k uからの納品物品の正規品でないものが混入していたという件につきましては、全く想定外の事案でございまして、全国的に高い評価を受けた事業であったことから、マスコミ等の扱いが大きくなったものと感じておるところでございます。

影響と検証でございますが、このたびの事件につきましては、平成30年度に贈呈しました方々には何度も連絡や訪問を行いまして、ご迷惑をおかけしたことは大変申しわけなく思っているところでございますが、お一人お一人全ての贈呈者に連絡をとりまして、確認作業と正規品の交換等をしっかり対応させていただいたことをご理解をいただいたと感じているところでございます。

また、7月報道以降も出生届け時にマザーズバッグを贈呈させていただきますと、大変喜んでいただいております、当初からの目的である地域で子育てを支援する心は伝わっていると感じているところでございます。今年度もはがきによるアンケート調査を行っておりますので、ご意見を反映をさせながら、この件を契機に、今後よりよい制度にしていくというのが私たちのこれからの役割かなと感じているところでございます。

NPO地域おこし協力隊についての意見等は、私たちの耳には入っていないところでございます。

○平 進介議長 13番、小関秀一議員。

○13番 小関秀一議員 非常に期待された事業がゆえに、影響が大きかったなというふうなこ

とで、参事からもそういう言葉をお聞きしたわけですが、市民の動揺も含めてであります、行政当局がこういう事案に対してどういうふうな姿勢で市民に説明をしていくのかというふうなことが問われるんだべなというふうに思います。

本事業、事件性として捉えていくのか、さまざまな全員協議会でも意見が出たわけですが、最終的には事件性があるとして、刑事訴訟できちんと相手を含めて、いわゆる物品契約を履行しなかったという意味で訴訟なりをするべきだというふうなお考えは、私はそう思っているんですが、参事はどういうふうなお考えで、今まで、いつ判断するのかというふうな、全員協議会でも何人かから出ましたので、その辺についてお答えをいただきたいと思えます。

○平 進介議長 小関浩幸厚生参事。

○小関浩幸厚生参事 NPO法人a L k uから購入したボックスに正規品とは異なるスプーンが入っていたことにつきましては、想定外のことであり、評価が高い事業であったことから反響も大きいものでした。

しかし、このたび全ての確認作業、交換作業が終了いたしましたし、被害という点からは、先ほどからありますように、購入契約に基づく金額的な未収金等はございませんので、相談している弁護士からは刑事事件としては難しいとのアドバイスをいただいているところでございます。

私どもといたしましては、なぜこのようなことになったのかという原因究明の点からは、繰り返しになりますが、佐藤代表に直接聞くしかありませんので、引き続き関係者と連絡をとるなど、そのための取り組みは継続していきたいと考えているところでございます。

とにかく説明を本人からしていただくしかございませんので、なぜ正規品と異なるものを納入したのかの真相を解明し、再発防止と今後の

事業の展開に生かしていきたいと思っていて、
ころでございまして、市からの告訴の予定はご
ざいませぬ。

○平 進介議長 13番、小関秀一議員。

○13番 小関秀一議員 私は十分、その契約を
履行しなかったということとか、市民である職
人さんに対しての、いわゆるさつき課長とのや
りとりの中でありましたが、もう既に職人さん
は納入の意思がないような佐藤さんの発言なり
を考えますと、それは業務を妨害したというふ
うなことも含めて、私は今回は事件性がある案
件だなどというふうに思います。起訴するかど
うかとかの判断については、これは警察の判断を
仰ぐというふうなことでありますので、ぜひと
もここは、ちょっと時間がないので飛ばします
けれども、契約、いわゆる事業を行う長井市長
の考え方と、これからこの事業の対応方につ
いてお考えをお聞きしたいというふうに思います。

○平 進介議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

客観的に、この事件っていうふうにおっしゃ
いましたけれども、私ども長井市としては、a L k uと物品の納入契約を結んでいたと。そして、その契約に基づいてベビーボックスの商品を契約に基づいて納入いただいたということでもあります。今回はたまたまC i e l oのほうから、それ違うんじゃないかということをお聞きして、私どももその中身が一部変わっていたということを知ったわけでございます。その点でいえば、私どもの物品納入契約に対する、いわゆる変更契約、中身を変える場合は協議をしなければいけないという要綱がありますので、それに違反してることになっております。私どもとしては、もう既に配り終わつたと、ただC i e l oさんの言うように、いろんな事情があつたと、わかんないです、ここは。a L k u側は、納品してもらえなかったから違うものにしたと、でも違うものにするとき、こちらに協議しなければい

けなかったわけですから、それ協議しなかつた
と。結果として、C i e l oさんのほうから、
その部分を納入いただいて交換したわけですね、
その金額についてもa L k u側のほうでしかり
と払っていただいたわけですから、私どもと
しては、その変更契約を結ばずに勝手にやっ
てしまったということに対する、私どもからす
ればa L k u側に責任がありますけれども、結
果としては損害賠償とか、あるいは名誉毀損
とか、そういうことをするような内容ではない
と。

あとは、市のほうとして、じゃあ送る側の世
帯、赤ちゃんが生まれた世帯に対しての道義
的な責任はどうかということについては、こ
れはおわびをしなければいけないわけでご
ざいませぬ、私どもとすれば、おめでたい
誕生のプレゼントに対して一部違つたとい
うことを大々的に言うのも、これは今後の
ことでもありますのでね、この事業は続け
たいという意思でありますから、子育て推
進課長を中心に事情をお話しして、ご納
得いただいた上でことしも続けております
から、事件性は、そのC i e l oさんとa L k u
さんではあるかもしれませんが、私ども
ではないと。ですから、訴訟等々を起
こしても、これは起訴にならないだ
ろうというふうに考えられますし、顧
問弁護士もそのような見解ですので、
私はするつもりはございませぬ。

ただ、1つ言いたいのは、a L k uも3年
間、地域おこし協力隊として佐藤亜紀
さんが一緒になつてこのベビーボ
ックスをやつてきたわけなん
ですね。副代表の本田さんなんかも
一生懸命、彼が最終的には亜紀
さんがいないので、全部責任
を持ったということですが、苦
労してつくつたもので、評価も
非常に高いと。ですから、非
常に残念なんですけれども、
でもうちのインキュベーション
施設で1年半ぐらいですかね、
指導してたはずなんですよ。
ところが、我々、こんな状
況を知らなくて、本当に経
営が厳しかったら、やっぱ
り相談してくればなど。した
がっ

て、私どもとしては、検品はしづらかったんですが、なぜ検品をしなかったかということは記者からの質問にもありました。一つ一つ包装してるんですよ、スプーンを、リボンで巻いて。ですから、それをほどいて検品するっていうのは、普通、信頼してるからしないわけです。でもそれが非常に反省、悔やまれると。

したがって、私どもとしては、今後二度とこういうことのないように注意しながら、やっぱり引き続きマザーズバッグということで、これから生まれていらっしゃる赤ちゃんのために、地域、市を挙げて応援していきたいと、そういう考えでございます。

○平 進介議長 13番、小関秀一議員。

○13番 小関秀一議員 質問の時間がなくなりましたので、大きい2番のデマンドについては別な機会に、大変申しわけありません。担当者の方におわび申し上げます。

最後、この件に関して、ほかの業者さんの未払いもあったということで、ご両親から6月18日に返金があったそうであります。やっぱりこれはNPOの組織そのものが、非常に弱体というか、不明な部分があって、決算もしてなかったりというふうな実態が、恐らく途中でも想像できた部分が、今、市長からは、指導が足りなかった部分はあるんでねえかというふうな言葉はあったんですが、その辺もやっぱり総括をしていただいて、今後、子育て支援の重要事業として問題のないように、あと、誤りのあった部分については、迷惑をかけた方々にはおわびを申し上げて、前に進んでいただくことを期待して質問を終わりたいと思います。

散 会

○平 進介議長 本日はこれをもって散会いたし

ます。

再開は、9日午前10時といたします。
ご協力ありがとうございました。

午後 4時21分 散会